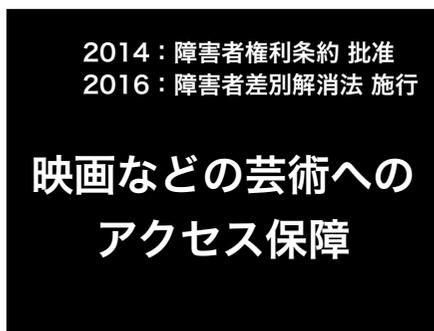




川野浩二 略歴
元パイオニア 音響エンジニア
レーザーディスク事業からパッケージビジネスに携わる
音で仕事をしてきたので、音の聞こえない方に何が出来るか考え、会社の中で「字幕の無いDVDにPCとネットを使って字幕表示」する仕組みを考え、実施。（現在270ディスク以上の字幕配信）
しかし、これは業界全体の問題と考え、約5年前にNPOを設立した。



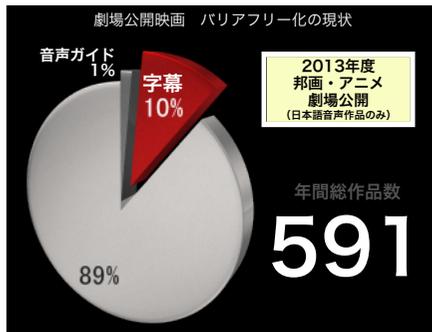
1：バリアフリー映画普及に向けた国内の動向
障害者権利条約は2007年に署名。批准までに6年かかった。



障害者権利条約 第三十条 文化的な生活、レクリエーション、余暇及びスポーツへの参加。締約国は、障害者が他の者と平等に文化的な生活に参加する権利を認めるものとし、障害者が次のことを行うことを確保するためのすべての適切な措置をとる。 映画などの芸術へのアクセス保障も含まれる。



あと1年7ヶ月までに、映画・映像バリアフリー視聴環境を作る事がMASCの目標。



現状はどうか？ 字幕付上映は全体の10%程度しかない。音声ガイドは1年間に5本程度。

フィルム上映では、字幕付フィルムを数本作って、全国を廻っていた。映画館はデジタル化が進み、字幕を入れたデジタルマスター (DCP)があれば、字幕は、ON、OFF出来る。つまり、字幕制作をすれば、全国の映画館で字幕付き上映は可能。

米国の状況
(未批准 1990年制定ADA法その他)

ADA法
テレビデコーダー法
テレコミュニケーション法
リハビリステーション法

ADA法：1990年制定 障害を持つアメリカ人法障害による差別を禁止する適用範囲の広い公民権法の一つ

テレビデコーダー法：米国内で販売される13インチ以上のTVにCC字幕の出る装置装着を義務化

テレコミュニケーション法：米国放送事業者向けCC規定を定める

リハビリステーション法：障害者が健常者と変わらぬ情報やデータへのアクセス保障 連邦政府のサービスにおけるアクセシビリティの確保を命じている

米国の状況
(映画館の字幕)

MoPix

ADA法 (障害を持つアメリカ人法)

によって、常時字幕の表示されるシステム。アクリル板に字幕を反射させて見る。300館以上で実施されている。国の方針で毎年増加。日本政府は無策。

(映画産業：経産省 / 映画館：厚労省 / 映画製作：文化庁)

省庁の壁 昨年発足した、障害者の芸術文化振興議員連盟によって、ようやく前進した。

米国の状況
(映画館の字幕)

最新システム (動画)

リーガルシネマ ソニー製字幕専用メガネ 6000スクリーンに導入
音声ガイドにも対応。

残念ながら日本語表示に対応していない。

映画館の設備投資が必要。



MASC開発「UDCast」

映画のマスター音声に、人間の耳には聞こえない、電子透かしを入れる。透かしの中には「時間情報」が入っている。

この時間情報に同期して、字幕や音声や手話映像等が流れる。

音声ガイドは全く問題無し。音声ファイル再生で音が良い。

字幕表示の欠点：光が漏れる 視線の移動が多くて疲れる。



ヘッドマウントディスプレイによる字幕表示

1：両眼式、エプソン モベリオ 発売済 AndroidOS マイクで同期

2：片眼式、オリンパス MEG (メグ) 開発中 AndroidOSスマホとBluetoothで通信



片眼式の見え方。視線を動かさず、スクリーンの上（黒い部分が見やすい）で字幕表示。

多言語の字幕を切り替えて表示可能。



江戸東京博物館で約3ヶ月実施。

iPod Touchの画面を左右のモニターに表示した。

字幕制作の方法 字幕制作ソフト「おこ助」



最新バージョンには音声波形が付いてより使いやすくなる。

検索「おこ助」



- 1：最初は貸出 道行く人が普通にヘッドマウントディスプレイを持つようになったとき、映画館の設備は不要。
- 2：映画のマスター音声に透かしが入れば、DVD、Blu-ray、放送、ネット配信等のメディア全てに対応出来る。



- 3：新システムデモンストレーション
iPhoneお持ちの方、AppStore「UDCast」検索





音声電子透かしの入った映像。



4：質疑応答の時間